

日野総合事務所だより



奥大山古道鍵掛地蔵遷座ウォーク大会での地蔵遷座祭(11月13日)

Contents

目次

特集(地震をふり返る)	2、3
県土整備局(日野総合事務所管内の除雪対応)	4
県土整備局(「土砂災害特別警戒区域(レッド区域)の説明会」について)	5
農林局(江府町美用地区のじげプロ)	6
農林局(日野郡青年農業者交流会の開催)	7
日野高校(頭本教頭先生の「育成功労賞」受賞、学校祭)	7
「たたら」の歴史を伝える取り組み	8



【つくろうよ みんなが笑顔になれる海】



第31回 全国豊かな海づくり大会



昭和56年に第1回が開催されてから毎年、都道府県をめぐりながら開催されているこの大会。
平成23年秋に鳥取県で開催されます。

豊かな海に注ぎ込む清らかな河川の水、その水は豊かな森から流れ出ます。

日野郡の森、川を守り育てることは、鳥取県の海も守り育てることになります。

大会をきっかけとして、環境保全、水産業の振興に目を向け、開催に向けて気運を盛り上げていきましょう。



ととりん

地震をふり返る



平成12年10月6日(金)午後1時30分に発生し、日野町で震度6強という強い揺れを観測した鳥取県西部地震から今年で10年経ちました。

現在、日野総合事務所で働く県職員の中で西部地震を日野郡内で体験した職員は、退職や異動に伴って数少なくなってきました。今回、10年目という節目を迎え、当時、日野に勤務していた職員に、地震の状況を振り返ってもらいました。

地震発生、そのとき

旧庁舎3階で仕事をしていた根雨土木事務所工務第二課河川係の井上史朗さん(現在…日野総合事務所県土整備局道路整備課)。大きな揺れに危険を感じ、机を離れて廊下に飛び出した。とても支え無しでは立てられないほどの揺れ。執務室内のキャビネットが机に倒れかかり、ファイルが散乱した。

一階にいた根雨土木事務所維持管理課維持係の西山勝重さん(現在…日野総合事務所県土整備局維持管理課)。机の下にもぐり揺れをしのいだ。揺れが収まった後に駐車場に避難した。庁舎の壁にひび割れができ、余震が続いて倒壊の危険があるとの判断で、庁舎内にいた職員は全員が駐車場に避難した。

当初、ラジオが聴けずにいた西山さんは、まさか日野町付近が震源とは思わず、事務所上空に多くの飛行機が飛んで来て旋回しているのが不思議だった。

一方、庁舎外で仕事をしていた職員もいた。根雨土木事務所運転士の七瀬康弘さん(現在…日野総合事務所運転士)は旧溝口町の榎水近くの道路改良工事の現場にいた。大きな横揺れに踏み張りながら大山を見上げると、頂上付近の岩が崩落し土ほこりが頂上を覆っているが見えた。それをみた瞬間「大山が噴火した!」と思ったという。すぐに山を下りて事務所に急いだ。その帰路の途中、車のラジオでようやく地震だとわかった。

幸いにも地震の揺れで大きなけがをした職員はいなかったものの、その後の災害処理は長期にわたり、職員の負担も増加しました。

ライフラインの確保を

時間休をとり米子市内で用事を済ませた松本正人さん(当時…根雨土木事務所工務第二課課長)。地震にあったのは、事務所に帰る途中の兼久土手交差点での停車中だった。これまで経験したことのないような大きな横揺れに恐怖を感じた。

日野郡内の国道の新設や改良、河川の改修等を担当する部署の責任者という立場上、「大変なことになった。早く根雨に帰らなくては」との思いで、道路に落ちている巨石の間をぬって、間地峠経由で根雨にたどりついた。

災害時、土木職員の第一命題はライフラインである道路交通網の確保だ。災害復旧を速やかに行うためにも、すぐに道路を通行可能にしなければならぬ。地震発生後すぐに、土木職員が手分けをして日野郡内の道路をパトロールし、道路や橋、堤防等の被害状況の把握に努めた。幸い堤防決壊など大きな被害はなかったが、道路への落石があったり、橋に1m程の段差ができていたり、安全に通行できるようにするには、すぐに応急工事が必要な箇所が多かった。

地震後数日は、多くの職員が事務所や車庫、車の中に泊まり込み、不

測の事態に備えた。少なくとも1ヶ月間はローテーションを組んで宿直を続けた。

本格的な復旧工事に向け、国の補助金を受けるための災害査定を年末までに終えるよう急ピッチで行い、年明けから工事を発注することができた。

工事が終了するまでその後何年かを要した。松本さんは、地震の翌年4月に県中部に異動となり、最後まで工事終了を見届けられなかったのが残念だったと振り返った。

目の前で山が崩れる

地震から一ヶ月後、日野地方農林振興局林業振興課治山係の矢田貝繁明さん(現在・大山自然歴史館館長)は、日野町榎市の町道横の斜面復旧作業現場にいた。

山の斜面に生えている木のてっぺんがガサガサ揺れ始めた。地面の揺れは全く感じない。何かおかしい……しばらくしてミシミシと山が鳴ったのを聞き、「山が崩れるぞー、早く逃げろー。」と叫んでいた。作業員と公用車運転手に避難を呼びかけ、全員が離れた後、山肌が滑るように崩れてきた。もし気付くのが遅れたら、人命が危なかった。危機一

髪の体験だった。

当時矢田貝さんは「治山」といい、山くずれを防止したり、くずれた土砂が下流に流れ出すのを防止したり、災害でくずれてしまった山を復旧する事業の担当をしていた。地震から一ヶ月以上経っていたが、11月初めにまとまった雨が降り、地震でゆるんだ地盤がくずれたものだった。地震後も油断できない状況が続いていた。

日野郡内のあちこちで山の斜面がくずれ、その復旧には何年もかかった。治山担当職員が少なかったため、矢田貝さんは年内は一日も休み無く働き、夜もたいていは日付けが変わるまで残業したという。

心のケアを中心に

日野地域保健福祉部長だった大城陽子さん(現在・西部総合事務所福祉保健局副局長)は、休暇中で、県職員仲間らと長野県にいた。

地震の一報は発生から2時間半後に家族から受けた。阪神大震災と同規模のマグニチュードと聞き、多数のけが人や死亡者が出ていないかと不安になった。

すぐに職場に電話し、被害状況を確認するとともに、西部健康福祉セ

ンター保健環境部長に連絡し応援を要請した。荷物をまとめ、鳥取に向けて車で出発。仲間らが交代しながら夜を徹して運転し、翌日明け方5時くらいに米子の自宅に着いた。すぐに職場に向かったが、国道181号線の通行止めなどで時間がかかり、根雨にたどりついたのは午前10時頃だった。

災害時には災害弱者となる方への支援が必要となる。郡内に住む障がいのある方、難病の方などの安否確認に追われた。電話が使えない場合は家を個別に訪ねた。

自分の間は、職員が交代で事務所に宿直した。事務所は寒く、電話近くに長椅子を運び寝ていた。

また、定期的に避難所を回り、住民の健康相談や健康チェック、避難所の衛生管理を続けた。避難所に来られていない住民の中には、自宅横の納屋や車の中で寝泊まりしている方もあり、県内各地から応援に来た保健スタッフや町役場職員と一緒に訪問相談に回った。

避難所が閉鎖された後も、引き続き心のケアを中心に住民の健康相談を行った。話を聞いていくと、地震発生時に受けたショックはもとより、多くの住民が抱える心配ごとや、今後この場所に住み続けられるかということだった。自宅が壊れた方

は、壊れた家のあとかたづけ、家の修繕、それにとまなう資金の工面などで悩まれていたので、健康相談と住宅復興相談はセットする必要があった。日野地域保健部として町の住宅復興担当者と一緒に高齢者や独り暮らしの方を中心に訪問していた。

幹線道路が通れなくなり孤立した集落があったが、道路が完全に復興するまでの1年間、健康相談などの訪問を続けた。

取材を終えて

当時の話を聞いていく中で印象に残ったのは、ある職員の「人間の力ってすごいなと思った」という言葉でした。その職員は、道路に巨石が落ち、いたるところで土砂くずれがおき、建物が傾いて屋根の瓦が落ちてしまった惨状をみて、『日野郡は立ち直れるのだろうか……』と不安に思ったそうです。しかし、住民の方が、ボランティアや行政の支援を受けながら力強く復興を進めていく姿に人間の力強さを感じたといいます。当時の県職員の体験をまとめたこの記事が、地震の記憶を呼び起こし新たな防災の一助になれば幸いです。

問い合わせ先

県民局企画県民室
郡民の窓口担当
電話 0859-72-2083

日野総合事務所管内の除雪対応

県土整備局では、本年度も冬期間の日野郡管内において除雪、凍結防止剤散布作業を行っています。

本格的な降雪はこれからが本番。住民の皆様へ安心して通行していただける道路の確保に向け作業していきます。

郡民の皆様へお願い

● 除雪作業の妨げになりますので、路上駐車は絶対にしないでください。

● 大雪時には、除雪時間が遅れる場合があります。住民の皆様にご迷惑をおかけすることもあります。ご理解をお願いします。

除雪機械出発式を開催しました



平成22年11月19日、日野町本郷車両基地において、平成22年度除雪機械出発式を開催しました。

根雨小学校3年生の児童は、除雪作業の説明を聞いた後に除雪機械の試乗体験し、最後にみんなで除雪機械の出発を見送りました。

平成22年度 除雪委託路線図



問い合わせ先 県土整備局維持管理課 電話 0859-72-2046



琴浦町の土砂災害 (H19年9月)

土砂災害特別警戒区域(レッド区域)の 説明会を開催中です

近年、集中豪雨の増加により全国的に土砂災害が多発しています。鳥取県内でも平成19年には県内で初めて時間雨量100^{mm}を超す豪雨により琴浦町、大山町で大規模な土砂災害が発生しました。

こういった土砂災害(土石流、がけ崩れ、地すべり)から住民の方の生命を守るため、鳥取県では「土砂災害防止法」に基づき、「土砂災害警戒区域(イエロー区域)」と「土砂災害特別警戒区域(レッド区域)」の調査を進めています。

イエロー区域については平成19年度までに指定済みですが、レッド区域については、調査が終わった地区から順に調査結果の説明会を行っています。説明会後は、県が市町村の意見を聞いた上で区域の指定をしていきます。

現在、江府町内で説明会を順次開催しており、本年度は日南町の一部まで、平成23年度に日南町の残り土日野町で行っていく予定です。

問い合わせ先

県土整備局計画調査課
電話 0859-72-2058

【土砂災害特別警戒区域(レッド区域)とは】

土砂崩れなどで建物が壊れ、人命に危険が生じる区域。

○レッド区域に指定されると…

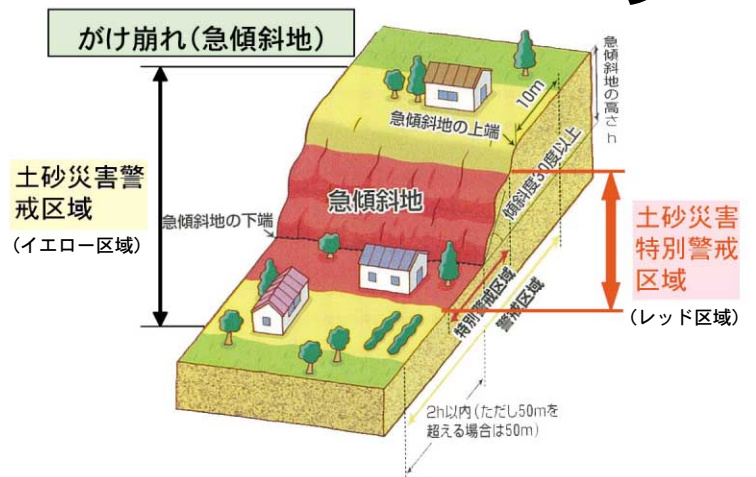
以下のような処置がとられます。

- ①家を建てたり、建て替えるとき、補強が必要になる場合があります。
- ②住宅分譲地や学校、病院、社会福祉施設を建てるための開発は、県の許可が必要になります。
- ③著しく危険な場合には、県が移転等の勧告を行う場合があります。
- ④この区域から引っ越しされる場合は補助や融資等の支援措置が受けられます。

【土砂災害警戒区域(イエロー区域)とは】

土砂崩れなどにより被害が予想される区域。

急傾斜地における警戒区域(イエロー区域)、特別警戒区域(レッド区域)のイメージ



～地域の農業を守る～

江府町美用地区のじげプロ



I 地区の状況を知る

江府町美用地区。奥大山の美しい自然に囲まれた農業地域ですが、近年、人口の減少、農業担い手の高齢化などにより農業を続けることが難しい状況にあります。そんな中、美用地区農家の「農業を続けたい」との強い思いを受けて、行政や民間などの機関が地元と協働して地域農業を支援していく事業「じげの農業復興プロジェクト支援事業」（略称「じげプロ」）のモデル地区として美用地区農業をサポートしていくこととなりました。

江府町美用地区での地域の農業を守る取り組みを紹介します。

まず、地区の問題や課題をはつきりとさせ、共通認識を持つていただくため、アンケート調査を行いました。

これをもとに、耕作地を耕作者年齢別に色づけ平面図を作成したところ、地域農業が危機的状況に直面していることがひと目で認識され、地区全体に「何とかしなければ」との共通した思いが広がりました。

地元農家、JA、江府町役場、総合事務所農林局というメンバーで話し合いを進めていくなかで、地域農業を守るひとつの方法として「集落営農（※）」に着目していきました。平成22年3月には集落営農の先進地である島根県飯南町の「高原の郷つか工房」などの視察を行いました。

II みんなで考える

先進地を視察して他地域の活動の盛り上がり刺激を受けたことで、美用地区でも集落営農組織を立ち上

III みんなで実践する

げようとの意識が高まり、その後も農家への意向調査やメンバーでの話し合いを重ねていきました。

美用地区の思いが結実し、平成22年8月1日に集落営農組織「美用営農組合」が設立されました。機械の購入、施設の導入、農作業の受託などの協働事業をすることで、水稲生産コストの削減と耕作放棄地を少なくすることを目指しています。この秋には共同で購入したコンバインで20畝の刈取りを行うなどの活動を始めたところです。



共同購入した機械での収穫

問い合わせ先

農林局地域整備室
電話 08559-72-2008

あなたの集落でこんな悩みはありませんか？

- みんなずいぶん年をとってきた。
- 集落に活気がなくなってきた。
- 荒れた農地が目につくようになった。
- 年をとって農作業がづらくなってきたけど、子どもは農業を継がない。
- 機械の値段が高くて新しい機械を買うことができない。
- 一生懸命働いているが、農産物の価格が安くて収入が少ない。

このようなことをひとりの力で解決するには限界があります。集落みんなで協力しあい、創意と工夫で活気ある農業集落にしましょう。

ご質問、ご相談は日野総合事務所農林局地域整備室まで。

日野郡青年農業者の交流会を開催しました

ここ数年、日野郡内で新たに農業を始められる方が増えてきています。その大半を占めるのは、いわゆる「Ｉターン者」「Ｊターン者」、Ｕターン者といわれる方達ですが、地縁がないこともあり同年代の農業者と関わる機会が少ない状況にあります。そこで、日野郡の青年農業者同士の交流を深めるため、10月29日に日野総合事務所で開催しました。

当日は、日野郡の青年農業者8名と日南町農林業研修生14名が参加し、日野郡での生活と営農について、今後の交流活動について活発な意見を交わしました。

参加者からは、引き続き交流を望む声が多く聞かれましたので、今後も定期的に意見交換等を企画し、青年農業者の皆さんが気軽に集えて将来の夢を語り合えるような場を設けていきたいと考えています。

問い合わせ先
農林局農業振興課
電話 0859-72-2006

交流会での意見 日野郡での生活について

- ・「人が温かい」
- ・「若い仲間が欲しい」
- ・「自然が良い」
- ・「交通・買い物物の利便性が悪い」
- ・「町外から人を呼びたい」

日野郡での営農について

- ・「雪害対策に苦慮している」
- ・「農業で周年安定した収入を得たい」
- ・「加工品販売・直売所などをしてみたい」

交流活動について

- ・「他部門の農業者とも意見交換してみたい」
- ・「長く続くよう定期的に交流会をしてほしい」
- ・「他町、他県の農業も見てみたい」
- ・「経営に関する勉強会がしたい」
- ・「消費者との交流会がしたい」
- ・「営農面の情報交換がしたい」



交流会の様子

日野高校から

頭本教頭先生が 表彰されました



甲子園での表彰式(8.15)右から2番目

今年の第92回全国高等学校野球選手権大会にて、根雨高校(現・日野高校)野球部元監督の頭本元文教頭先生(昨年3月退職)が、高校野球の発展に尽力した指導者に高等学校野球連盟と朝日新聞社から贈られる「育成功労賞」を受賞されました。

問い合わせ先
鳥取県立日野高等学校
日野町根雨310
電話 0859-72-0365

学校祭を行いました

9月1日からの3日間、日野高等学校の学校祭を行いました。

今年は、体育館の改修工事のため、日野町文化ホールをお借りし、クラスと文化部のステージ発表などを行いました。歌・踊り・劇と各クラスが工夫を凝らしたとても楽しいステージで大いに盛り上がりました。

また学校で行われた模擬店には、完全手作りの「日野高バーガー」、「挽肉カレー」などが出店され、一口頬負けの味でお客様の好評をいただきました。



学校祭のクラス発表

「たたら」の歴史を伝える取り組み

伯耆国たたら顕彰会

中国山地沿いの奥日野は、奥出雲と並んで昔から『たたら』と呼ばれる製鉄が盛んでした。江戸時代には中国山地沿いの山々では豊富な山林と真砂鉄と呼ばれる純度の高い砂鉄が取れたことから日本全土の鉄生産量の80%以上が生産されたといわれます。

しかし、明治になり鎖国が解かれると、洋鉄と呼ばれる大量生産された鉄が輸入され、その生産技術を取り入れ国内でも大量の鉄が生産されるようになったことで奥日野では大正8年にはたたら製鉄は行われなくなりました。(戦時中に鉄不足から一時復活されたことはあります)

この地域を繁栄させた「たたら」の歴史がこのまま消えてゆくことを残念に思った有志が集まり、今年の春『伯耆国たたら顕彰会』を立ち上げました。また、それまでに日野町商工会と日南町商工会とで調査してきた資料をもとに、「たたら」のことを楽しく学べる『根雨楽舎』『大宮楽舎』という資料館を作りオープンしました。最近では、奥日野のたたら製鉄の歴史と庶民の生活をわかりやすく伝えようと、小説「TATARA」を出版するなどの取り組みをしています。

今後は、日野町の都合山たたら遺跡、日南町の砺波たたら遺跡の発掘調査が終了したこともあり、「たたら顕彰会」のさらなる取り組みが注目されます。

【大宮楽舎】

たたらの歴史や仕組み、生産されていた印賀鋼について解説。

- ◆開校/月曜日～金曜日
10:00～16:00 入場無料
- ◆場所/日南町印賀1516
大宮地域振興センター内
- ◆問合せ/0859-87-0911



根雨楽舎を視察する
平井知事(7.24)

【根雨楽舎】

日本最大の鉄山師といわれた近藤家の資料を展示。

- ◆開校/土曜日、日曜日、祝日
10:00～16:00 入場無料
- ◆場所/日野町根雨645
日野町公舎内
- ◆問合せ/0859-72-0249



たたら顕彰会では「たたら」や奥日野関連の情報をホームページで発信しています。

たたらの里 <http://tatara21.com/index.html>

奥日野が舞台の小説「TATARA」の出版

たたら

米子市在住の女性作家・松本薫さんが執筆された「たたら」をモチーフとした長編小説「TATARA」が11月1日に出版されました。

激動の明治時代、かつて「たたら」で栄えた日野谷を舞台に、主人公「りん」を中心にたくましく生きた人々が描かれた感動の小説。「たたら」の炎とともに熱く燃えていた奥日野の生活を感じられる作品です。

地元書店にて好評発売中 価格1,850円



編集発行：鳥取県日野総合事務所県民局 〒689-4503 日野郡日野町根雨140-1
TEL 0859-72-0321(代) FAX 0859-72-2072
E-mail h-kenminkyoku@pref.tottori.jp URL <http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=1700>